



### わたしたちにできること

石巻市立渡波小学校 5年 千葉 美遼

七年前の三月十一日、東日本大震災がありました。そのときのわたしはまだ三才で、当時のことをほとんど覚えていません。

お母さんにそのころのことを聞いてみると、わたしたちの生活に「水」がすごく大切なものだったことが分かりました。お母さんは、当時の暮らしを思い出しながら、震災の後には、体が洗えなかったことや、トイレを使った後に水で流せなかったことなど、大変だったことをわたしに教えてくれました。だから、水道から水が出たときには、なみだが出るほどうれしかったそうです。

今はじゃ口をひねると、きれいな水が絶え間なく出てきます。そのおかげで、わたしたちは、毎日健康で不自由なく暮らすことができます。でも、わたしたちは、震災のときに大変だったことを忘れてしまい、水を無だ使いしてしまっているのではないのでしょうか。

例えば、歯みがきをしているときに、うっかり水を出しっぱなしにしていると感じたことがありました。その間に、どれだけの水が流れていくのでしょうか。体を洗っているときに、シャワーの水を出しっぱなしにしていることも多いと思います。震災の直後のお母さんが、どんどん水が流れていく様子を見たら、何と言うでしょう。

わたしたちの生活は、色々な場面で水に助けられて成り立っています。震災を経験したわたしたちだからこそ、水を無だ使いすることなく、大切に使わなければならないと思いました。

お母さんに話を聞くと、わたしの家でもたくさんの「節水」をしていることが分かりました。台所では、お皿のひどいよごれや、フライパンに残った油を新聞紙でふき取ってから洗ったり、洗いを多く使わないことで、すすぐ水をへらすようにしたりしているそうです。初めて気が付きましたが、トイレとお風呂のシャワーヘッドは節水用のものを使っていると話していました。植物への水やりには、ためていた雨水を使っていて、夜に動いている食洗機は、手洗いだと一回、六五～七五リットル使う水の量を、約九分の一に減らせるそうです。わたしの家でも知らないところで、たくさんの「節水」が行われていることにおどろきました。

わたしも、節水について考え、実際に取り組んでいることがあります。歯みがきをするときには、使う分だけコップに水を入れるようにしています。シャワーの水は、一分間で十二リットルの水が流れ出るそうですが、使わないときには、こまめに水を止めるように心がけています。一回一回の量はわずかでも、一人ひとりが小さな「節水」を積み重ねていくことで、きっとたくさんの水の無だ使いを防ぐことができると思いました。

日本の水は、きれいで安心・安全です。でも、水について調べてみると、外国では、日本のように安心して水を飲むことのできない国も多いそうです。それらの国では、水を飲んだことが原因で病気になったり、亡くなってしまったりする人がたくさんいると分かりました。

水は、すべての生き物が生きていくために欠かすことのできない大切なものです。人間の体も体重の約六十五パーセントが水分であり、水道から出てくる水に私たちの命が支えられているということに気が付きました。

わたしたちの国の水道は、わたしたちの命をつないでくれる宝ものです。震災のときのお母さんたちが感じた、なみだが出るほどうれしかった気持ちをいつまでも忘れずに、水を大切にしなければなりません。これからもわたしにできることを続け、もっとできることがないか、探していきたいと思います。

さあ、あなたにできることは、どんなことですか。